立教セカンドステージ大学 Newsletter

RIKKYO SECOND STAGE

Contents

P1　帰って見れば、こは如何に・・・
P2～3　清里合同ゼミ合宿、ホームカミングデー
P4～5　本科ゼミナール活動紹介、ビジネス日本語科目
P6～7　専攻科ゼミナール活動紹介、施設・サポート体制
　　RSSC主催講演会、同窓会主催講演会
P8　社会貢献活動サポートセンター、フィールドワーク
　　クリスマス関連行事、編集後記

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、立教大学が提供する生涯学習の場です。RSSCは、RIKKYO SECOND STAGE COLLEGEの略称です。

Vol.20
発　　行：立教セカンドステージ大学
編集責任：加藤　睦　　編集長：佐藤　勇一
発 行 日：2018年２月25日
〒171-8501　東京都豊島区西池袋 3-34-1

帰って見れば、こは如何に・・・

立教大学名誉教授
立教セカンドステージ大学担当教員　北山　晴一

立教セカンドステージ大学（RSSC）がスタートしてから、早や10年の歴史。立ち上げに加わったものの一人として感慨は一入である。準備作業に１年間、そして立ち上げ後は「現代世界論」（当初は必修科目）の担当者として２年間(2008年度、2009年度)、合わせて３年間お世話になった。楽しくも、慌ただしく過ごしたセカンドステージ大学の日々であった。立教大学を定年退職後、大阪の女子大学に転職したため、止む無くRSSCとも縁が切れていたところ、偶然が重なって、昨年４月から、復帰した（ゼミと科目「俗世間と認識論」の担当）。復帰して見れば、こは如何に、もと居た家も村もなく、路に行きあう人々は、顔も知らない者ばかり、となっていたら、どうしよう、さびしいな、かなしいな、との危惧は、杞憂であった。スタッフは様変わりしていても、セカンドステージ大学の理念や振る舞い、居心地の良さは、一貫して維持されており、否、維持されているどころか、そのミッション性とサービスは以前に倍するものがあると見えた。定年後に再び学びの時間を持ちたいという声は、いま世界中で聞こえる。学び直しへの意欲は、もちろん定年後だけではなく、働き盛りの人々の間でも強まっている。だが、それは多くの場合、よりよい経済条件を求めての転職を有利に運びたいとの気持からであろう。その点、立教大学セカンドステージ大学に集う受講生たちの動機は、だいぶ異なる。多くの受講生たちの勉学意欲を支えているものは、如何に生きるべきか、であろう。であればこそ、受講生たちは「ひとり学ぶ」のではなく、「ともに学ぶ」ことに、ひいては「ともに学び」かつ「ともに生きる」知恵と歓びを見出そうとしているかに見える。授業においてもそうだが、とりわけ修了論文作成に際して彼らが見せる「いっしょに書き上げよう」とともに支え合う姿は感動的ですらある。ご存じのように、RSSCを修了するには、必修を含む多くの授業を受け、ゼミに所属し、修了論文を書かねばならない。この点が、巷のカルチャースクールとまったく違うところだが、こうしたハードルをともに超えていく中で、真の意味での大人の条件（シティズンシップ）が育まれていくのではないかと思う。RSSCは、けっして鯛や比目魚の舞踊りに現を抜かす場ではない。 最後になったが、私の授業「俗世間と認識論」について、ひとこと。日常茶飯の事柄と世界の現れ方と、その両方を見渡すことは容易ではないが、異なる見方の存在を理解することを通して、世の中を少しだけでも住みやすく、また自らも生きやすくなる道筋をみなで考えて行きたい。そのためには、消費社会に特有の結論を急ぐ思考習慣、あるいはA＋B＝お金が儲かる、という思考スタイルからいかに抜け出るか、経済効率ではなく、社会的あるいは人間関係的にプラスになる思考へといかにシフトしていくかが課題だ。授業では、そんな方向を目指して、ともに話し合い、語り合い、聞き合うことに努めている。結論よりも議論、そして笑いを大事にしたい。

2017年度本科

本科恒例の清里合同ゼミ合宿が、今年も９月１日～３日の日程で八ヶ岳を望む清里高原で開催されました。

合宿先となる「清泉寮」は、清里開拓の父と呼ばれるポール・ラッシュ博士により設立されたキープ協会が運営する宿泊施設。ここに本科生60名、教職員９名が参加し、爽やかな自然の中で、中身の濃い３日間を過ごしました。

＜一日目＞
昼前に清泉寮到着～昼食～佐藤壮広先生のワークショップ（歌づくり）～千石英世先生、上田恵介先生の講演会～夕食～キャンプファイヤー

＜二日目＞
野鳥観察会～朝食～自然保護観察～聖アンデレ教会見学～昼食～オプション選択イベント～夕食～懇親会

＜三日目＞
朝食～ポール・ラッシュ記念センター見学～帰路

本科ゼミ合同合宿に関するアンケート結果（抜粋）

全体の感想について		
1.非常に満足	32名	55%
2.満足	25名	42%
3.改善を要す	2名	3%
合計	59名	100%

プログラムについて		
1.非常に満足	21名	36%
2.満足	35名	59%
3.改善を要す	3名	5%
合計	59名	100%

回答数59名（参加者60名）

佐藤壮広先生ワークショップ

＜カレッジライフを詞（ことば）に＞

♪月曜日は聖書の講義、火曜日は介護の実習、チュラチュラ～♪。佐藤先生のご指導で、７つのグループに分かれ、学生生活で感じていること、将来の夢などをメンバー全員で思いつくままキーワードを出し合い、ＫＪ法で作成して起承転結をつけて詞にしました。そして先生のギター伴奏で、「ふるさと」や「一週間」など、おなじみのメロディーにのせて、グループごとに合唱発表しました。思わず納得、あるいはほろりとしたり、身につまされるフレーズも飛び出したり、楽しくも、新しい自己発見ができたワークショップでした。

自然保護観察

＜自然の中での新たな発見・感動を体験＞

清泉寮の体験プログラムの一つとして、自然保護観察が２日目の午前中に行われました。

清泉寮のレンジャー（自然案内人）の案内で、周辺の森の自然を体験するプログラムです。レンジャーからスズメバチに襲われた時の対処法やモグラの落し物（フン）の発見、「ささあめ」「笹笛」の作り方などを教えて頂きました。皆、童心に返りワイワイ騒ぎながら楽しく森の中を散策しました。そして、草むらに横たわり草の匂いを嗅いだり、森の中に吹く風を肌で感じたり、あまり日常生活の中では体験できない貴重な経験をすることができました。

初秋清里一刻値千金（清里合同ゼミ合宿委員長からのコメント）

本科総ゼミ長：布施芳一

数ある正課外行事のうちでも最大のイベントである清里合同ゼミ合宿は、教職員を含め総勢約70名の参加を得て大成功でした。降雨の予報にも関わらず好天に恵まれ、ポール・ラッシュ像が遥かに望む富士山をも拝むことができました。武藤チャプレンのお祈りでいただくブッフェのオーガニック料理はとても美味しく、体重が増えた方が続出したようです。何十年ぶりかのキャンプファイヤーやフォークダンスでは、火の神・火の子による着火の儀式から非日常世界に誘われ、佐藤壮広先生の歌作りワークショップや懇親会でのゲーム、本科同期の横堀一男さんの指笛漫談などでは大いに盛り上がりました。黙想館や各部屋における深更までの談論風発は友情を育む契機となりました。またキープ協会のレンジャーの皆さんが案内してくださる清泉寮周辺の自然保護観察では、八ヶ岳の大自然を満喫することができました。ＲＳＳＣの受講生となって半年、正課等のカリキュラムを通じて深められた学びの縁から濃密な人間関係を構築する端緒となったに違いありません。

清里合同ゼミ合宿

聖アンデレ教会見学

＜質素な石づくりの聖アンデレ教会での温かい講話＞

現代では珍しい畳敷きの教会で、武藤チャプレンより講話を頂きました。地元信者の方や信仰を同じくする方々の手で川俣渓谷からたくさんの石が運ばれ、聖堂が完成したとのお話を伺い、信仰がなせる大きな力に感銘を受けました。また、戦時中の昭和19年８月には伊豆大島から藤倉学園の疎開を清泉寮で受け入れ、気候の違いなどで疎開中に亡くなられた方々のお見守りを関係者の方が未だにされておられることに感動し、当時ポール・ラッシュ博士が“フジクラボーイズ”と園生を愛称で呼ばれ、大変気にかけておられたとのお話にも博士の温かい人柄が偲ばれました。

キャンプファイヤー

＜炎の明かりに遠い昔を思い出すフォークダンス＞

毎年恒例となっているキャンプファイヤー。上田恵介先生の「火の神」入場に始まり、薪の山に点火され気分はすっかり数十年前の青春時代に戻りました。雰囲気が盛り上がり、みんなの気持ちが一つになった所で、フォークダンスです。「マイムマイム」「ジェンカ」を踊りました。最初は忘れていたステップも、曲が進むにつれ、昔取った杵柄（？）上手に踊れました。最後は、キャンプファイヤーの炎の明かりの中、佐藤壮広先生のハーモニカ演奏に合わせ、「遠き山に日は落ちて」を大合唱しました。

清泉寮のレストラン

＜明日への活力、美味しい食事＞

ＲＳＳＣで出会うまでは知らなかった者同士が、更なる懇親を深めようと行われる清里合同ゼミ合宿。意外とタイトなスケジュールをこなしていくのに、大きな力となったのは清泉寮の美味しい食事でした。ブッフェ形式で、品数が多く、見た目も味も素晴らしい食事に、こだわりのあるおじ様おば様方も大満足。回数を重ねると、今日はどのラインから選ぼうかななど、料理の選び方も上手くなり、外の景色が見渡せる新館ホールで会話も弾みます。最終日の朝には、富士山も見ることが出来ました。食事の前には武藤チャプレンのお祈りもあり、これぞＲＳＳＣの合宿でした。

ホームカミングデーにRSSC社会貢献活動サポートセンターが出店

立教大学校友会と立教大学が共催する第55回ホームカミングデーが10月15日に開催され、雨の中多くの立教生、卒業生が集い、ＲＳＳＣ社会貢献活動サポートセンターの研究会が合同で参加しました。アクティブシニア研究会のプロジェクト「コットンドリームいわき」で育てたオーガニックコットンで作られた人形、ハンカチ、手ぬぐいの販売。ソーシャルビジネス研究会は収穫した無農薬さといもや栗を販売。プラチナ社会創造研究会は繋がりのある秩父市と秩父ワイン、ウイスキーの試飲会で賑わいました。かがやきライフ研究会、コミュニティ活動研究会の活動事例発表、また豊島区のゆるキャラえんちゃんが参加して、子供たちの人気者になるなど、池袋キャンパスが立教を愛する人々で一杯になった楽しい一日でした。

2017年度　本科ゼミ

４月、ゼミナール教室において少し緊張気味で初めての顔合わせをしてから半年が経過し、それぞれの講義、サークル活動、清里合同ゼミ合宿を体験してきました。

千石ゼミ
われら書を置いて街に出る

アカデミアの深遠な世界にどっぷりと浸っている私たち千石ゼミのメンバーは、春学期のゼミでは、死生観に関する小説の世界を探求しつつ、ここで学ぶことの至福の思いに酔いしれました。そんな私たちも時には書を置いて街に出ます。９月には東京藝術大学奏楽堂でＪＡＺＺに耳を傾け、谷中では、夕やけだんだんを下りながら皆でコロッケを食し、また、「繪処アランウエスト」のアトリエでは屏風絵、掛軸に接して、米国人が表現した日本を知るに及びました。まさにリベラルアーツの実践です。次なる課外活動は、両国の散策とふぐ料理の食の実践です。これもすべて修了論文の糧と！

北山ゼミ
良く飲み、良く遊び、良く語る仲間との出会い！

毎週金曜日の６時限目（？）は、男性陣主催の「ゼミ反省会」と称する飲み会に女性達も毎回のように参加し、修論や人生論を熱く語り合っています。さらに女性陣は「入谷の朝顔市」「京成バラ園」などの課外活動にも積極的です。11月には両国出身の北山先生のルーツ探索を兼ね、ゼミ生で“ぶらり両国街歩きツアー”に参加。名物の“浪花の鯛焼き”を頬張りながら、元禄文化の足跡を懐かしむ女性陣と、ガイドさんの揚げ足取りをさせたら天下一品のお茶目な男性陣。ダジャレと笑いに満ちた90分のコースは、「すみだ北斎美術館」の見学を経て、東天紅でのお楽しみランチタイムに至りました。

高橋ゼミ
芸術の秋　上野の森に集う

修了論文作成もいよいよ終盤。高橋先生指導の下、度重なるブレーン・ストーミングで熱く熱した頭脳を一旦冷却しようと選んだ課外ゼミは美術鑑賞。小春日和の一日、ゼミ生思い思いに名画鑑賞に浸った後、不忍の池のほとりで懐石料理を楽しみました。僅かでもアルコールが入ると、場はいつもの懇親会。絵画品評はどこにやら、四方山話で盛り上がりました。楽しい時間を惜しみながらも一旦解散。引き続き美術館巡りをする者、色づき始めた公園を散策する者、家路を急ぐ者様々でしたが、リフレッシュした頭脳で修了論文作成に拍車がかかるものと期待されます。芸術の秋にちなみ、短歌を一首

名にしおう　名画を急ぐ　昼御膳
　　幾つになっても　花より団子
（詠み人知らず）

黒木ゼミ
みんなできめて、みんなでいっしょに！

６月29日の「アーリーサマーパーティー2017」でのゼミメンバーによるギター演奏と唄。当日の控室で、たった一度の予行演習のわりには上手くできたと自画自賛です。黒木先生のご専門である経済学に関連するアダム・スミス「国富論」の基礎となった「道徳感情論」の勉強会を主目的として、８月上旬に１泊２日のゼミ合宿。３台の車に分乗して箱根経由山中湖へ。宿泊先の山中湖畔のホテルで、グループ討議、飲み会、修論に関する先生との個別面談などで夜遅くまで。地元池袋での食事会（飲み会）、著名なイタリアンレストランでのバイオリン演奏会などの外部活動。ゼミ仲間と標題をモットーにゆるく、楽しく、まじめにゼミライフを過ごしています。12月24日ゼミで主催したクリスマスレクチャーコンサートは大盛況でした。

「異世代共学」日本語教育

授業参加者レポート

「ビジネス日本語科目（中級）」を受講する留学生が日本語ビジネス場面の商談や打合せを模擬体験するプログラムに、ＲＳＳＣから月１～２回全６回、各４名が参加しています。上級は各２名が参加しています。授業はプロセス（挨拶、説明、質疑応答、確認など）に沿って商談・打合せを行います。留学生は企画・仕様・納期等のビジネス用語を理解し、ほぼ不自由なく日本語での意思疎通ができています。ＲＳＳＣの参加者は、留学生が提示する資料や説明で不十分なものを指摘し、時には想定外の問いかけをし、留学生の対応力を試しつつ、いろいろな場面が体験できるよう心掛けています。留学生の日本語は少したどたどしいですが、必死になって話しています。この頑張りが実を結ぶことを祈りつつ、ＲＳＳＣが異文化交流に少しでも力になれればと思い取り組んでいます。（授業参加者：10期篠原大三）

〈プレゼンテーションにアドバイス〉

ナール　活動紹介

各ゼミにおいては、担当の先生方から丁寧な指導を受け、学問の世界に深く身を浸しつつ、また教室を飛び出し様々なフィールドワークも行っております。

加藤ゼミ
秋、芸術と味覚を堪能する

秋本番の某日、加藤ゼミでは、遅々として進まない修了論文作成からの気分転換と秋を堪能することを兼ねて、恵比寿を訪れました。恵比寿といえば、写真美術館とビールです。まず、写真美術館では其々のペースと感性で写真展を鑑賞しました。ゼミ生の一人高橋さんいわく「写真は作者の一貫した意図の反映であり、一方で無駄な物を捨てることが重要である」。この考え方は論文作成にも通じるものがあり、大いに参考になりました。鑑賞後はビアホールで乾杯後、写真展の感想を含めた芸術論や政治論、人生論等様々な話題で大いに盛り上がり、修了論文作成に向けて英気を養いました。

鈴木ゼミ
美しき夜景を望む船上の宴にて

修了論文作成の合間を縫って、11月23日（祝）に少し早目の忘年会を浅草から出る屋形船の船上で開催しました。当日の天気は予報では雨。しかし、午前中に雨は止み、午後からは晴れてきて、出船時間の夕刻には美しい東京スカイツリーが望めました。もしかして鈴木ゼミは持ってる（!?）。出船後は、東京タワーやレインボーブリッジなどの夜景を楽しみながら、皆で今年を振り返ったり今後の夢などを語り合ったりして楽しいひと時を過ごしました。そして、英気を養ったゼミメンバーは、鈴木先生の御指導の下、修了論文の完成に向けてラストスパートに臨むのでした。

上田 信ゼミ
修了論文に向かう海図なき航海、実は？

４月のゼミ開始当初、先生から「修論は、まだまだ先ですね」と言われ、やや安心してスタート。夏休み後、10月、残るは３カ月と迫る中、先生から「それでは修論テーマ、課題は、10月、11月でＫＪ法を使ったブレーンストーミングを行い全員でブラシュアップしましょう。執筆は12月に集中しましょう…」と一声。一瞬、このハードルは高く、12月にはさすがに大ジャンプは必要かと思われました。しかし前期のゼミを振り返ると課題の本や興味のある本を読み「５Ｗ１Ｈ」、「モノ」「イミ」「ヒト」で物事を考察、小レポートにまとめるという指導を何回か受けてきました。これが修論の下地作りであり後半３ケ月へ繋がる上田ゼミ実力養成のための海図だったと理解し、自分の力、仲間の力を信じることに。長文作成に不慣れな我々ですが、「自分の文章スタイルをものにする」「書けるところから書く」のアドバイスを頂き、果敢に修論にチャレンジします。

平賀ゼミ
駒込モリソン文庫を訪ねて・個別指導風景

東洋文庫の歴史は1917年（大正６）三菱三代当主岩崎久彌が東洋書収集家モリソンから、「東方見聞録」などの貴重な蔵書を当時の金額３万５千ポンド（現在の価値70億円）で買い取ったことから始まった。現在多くの国宝級の資料が収められ展示されている。モリソンの長男イアンが大戦後の香港が舞台の映画「慕情」のモデルであった事に驚く。ソファーに座り目の前の書架を見上げれば静かに時が流れて行く。この異空間の中、RSSCで出会った先生や仲間達に思いを馳せる。学びを共有する時間は宝物である。８月夜の浅草探訪に始まり、モリソン文庫訪問、専攻科ゼミとの交流会、個別指導を挟んで池袋演芸場、そして意見交換会と我々の活動は続く。

センターとの教学連携

見学者の感想

「ビジネス日本語科目」はできる限り実際のビジネスシーンを再現して、日本語運用能力を引き出し、実践力をつけることを目的とした留学生サポート活動です。10月30日に行われたセッションは、ＲＳＳＣのニーズ（学生募集）をもとに、社内会議において上司（ＲＳＳＣ生２名）に部下（留学生２名）が企画書を提出し、説明をする設定でした。上司の鋭い指摘と質問に対し、懸命に日本語のみで対応する留学生の姿勢は胸を打ちます。上司は一方的ではなく、アドバイスしながらもっと良い言葉を引き出そうとし、演習とは言え留学生の真摯に答えを探す姿はとても印象に残りました。実社会の経験者であるＲＳＳＣ生の活躍にも拍手を送りたいです。

〈ビジネスシーン再現風景〉

専攻科ゼミナール活動紹介

上田恵介ゼミ

鳥が結ぶ縁。我ら上田恵介ゼミは、他のゼミの男性もうらやむ女性９名、男性２名というあたかも女子大に紛れ込んだような環境の中で、修了論文を中心に授業が行われています。上田先生は沖縄やポルトガル、ヒマラヤなど世界を股にかけ鳥の研究にいそしんでおられます。また、「ダーウィンが来た！」や「天才！志村どうぶつ園」などテレビにもよく出られています。修了論文の発表で張り詰めた空気が漂っている中、先生が優しく鳥の話をされ、しばし癒しの時間が流れます。親睦会では「卒業旅行はどこにしようか」など熱いやりとりが交わされ、別の意味での課外活動になっています。「鳥」で結びついた上田恵介ゼミは、卒業してからも先生を中心に活動していきたいと思います。

渡辺ゼミ

アメリカ文学が専門の渡辺信二先生とゼミ生10名で構成されています。渡辺先生の「しなやかな知性を身につける」を目標に日々研鑽中です。ゼミ最初の日に、年間計画が渡され、緻密な計画を見て驚きました。今まで、聞いた事の無い「ビブリオゲーム」や「課題図書によるディベート」で読書の仕方、アピールの仕方を学びました。読書好きな方にはおすすめですよ。ただ、ゼミ生も先生に向かって「やめましょうよ」「無理ですよ」と平然と言ってのけ、それを多少は聞いていただける優しい先生です。気功などもやられ、帽子とリュックがお似合いの先生と、個性豊かなゼミ生からなる渡辺ゼミです。

野田ゼミ

野田ゼミは、男性７名女性４名の総勢11名、９期生だけでなく５～８期生も一緒のいろいろな顔を持ったゼミであり、修論テーマを含め和文化を愛する仲間達です。ゼミ初回は専攻科らしく修論テーマ発表、夏休み明けには修論50％提出、11月には80％とスケジューリングされた中で、野田先生からは「論文は情熱の所産、書きたいことを存分に自分で面白がって書きなさい」とのご指導を戴きながら奮闘する一方、池袋演芸場、月島もんじゃ等、和文化との触れ合いを実践している、本科とはちょっと違った趣のある専攻科らしい大人のゼミと言えます。このゼミの仲間との結びつきを各自の生きがいとして、やりがいのある修論を中心にこの一年間専攻科ゼミとして活動してきました。そしてＲＳＳＣを卒業した後も、大人の付き合いをして行ける生涯の友となりました。

成田ゼミ

成田ゼミは、社会学専門の成田康昭先生のご指導のもと、男女５名計10名のアクティブなメンバーで活動中。毎回、論文テーマに基づき２グループに分かれ、先生も交えて積極的なディスカッションが行われております。11月の爽やかな快晴の日。先生とメンバー全員で秋の両国を満喫。「すみだ北斎美術館」「回向院」「旧安田庭園」を巡り、ちゃんこ鍋とお酒を楽しみました。ゼミでは、社会問題から自分史まで様々な学びを共有。アフターゼミでは、恋バナや夢バナなど青春ドラマさながらのキャンパスライフを満喫しています。

坪野谷ゼミ

先生の名前は「雅之」、ゼミ生の合言葉は「雅屋」。そう、私達は坪野谷ゼミ。本科での充実した時を過ごし、更なる意欲をもって巡り合った男性４名女性７名の仲間達です。ある時は教室が空っぽになったにもかかわらず、“かくれんぼ”のように先生が隠れ家の「居酒屋　雅屋」で私達を見つけて下さいました。空のように広い大きな心をお持ちの先生のもと、個性が豊かすぎるメンバーはゼミ時間さえも自由？なマイペースさを貫いています。いよいよ佳境に入る段階となった修了論文をめぐっては、ゼミ長の仕切りを横目に「もう出来ちゃった」「まだ白紙」と様々、大人の余裕です。さあ、残るは先生への感謝を込めたゼミの課外活動。修論を終えてほっと一息がそのまま“冬眠”にならぬよう、「楽しく元気よく」みんなで計画立てるぞ、エイエイオー！

立教大学施設紹介
〈ＲＳＳＣ受講生のおすすめ　知の探究とリフレッシュ〉

入学してまずとまどうのは、パソコン操作です。メディアセンターでは、初心者にもわかりやすく研修を実施しています。池袋図書館は最大収蔵冊数200万冊、閲覧席数1520席と都内屈指の規模を誇り、思いのままに知の世界を探究できます。論文レポート作成で困ったときは、２階ラーニングアドバイザーコーナーへ。大学院生から丁寧な学習指導を受けることができます。そして勉強に疲れたら、心身のリフレッシュを。ポール･ラッシュ･アスレティックセンターでは室内温水プールを利用できます。充実した設備を利用して、豊かなカレッジライフを送りましょう。

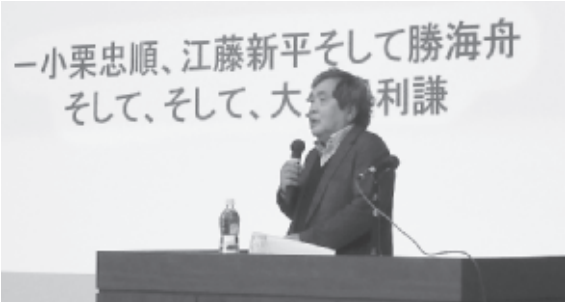
〈都内屈指の規模を誇る「滞在型」図書館〉

〈スポーツを通じて心身の鍛錬、50m温水プール〉

立教セカンドステージ大学主催公開講演会が今年も開催されました

「明治維新・敗者のヒューマニズム」
～小栗忠順、江藤新平そして勝海舟～
渡辺憲司先生

立教大学名誉教授にして現在は自由学園最高学部長を務める渡辺憲司先生の講演会が11月11日に開催されました。枯れ葉の舞う池袋キャンパスにある大教室は、RSSC受講生を始め一般の方々等でほぼ満席となりました。江戸から明治への激動の時代。理想に燃え、数々の偉業を成し遂げながらも権力闘争に敗れ去って行った小栗忠順と江藤新平。そして勝者よりも敗者に手を差し伸べた非戦論者の勝海舟。さらには現代の教育論へと渡辺先生のお話は熱く熱く語られ、講義の90分はあっという間に過ぎてしまいました。最後に先生の言われた「年を重ねてから学ぶことは、今までの知識をもう一度自分で考えてみること」との言葉が心に残りました。



「今やり直す！おとなの英語学習」
～発想と方法～
松本茂先生

立教大学経営学部国際経営学科教授/グローバル教育センター長を務められ、ＮＨＫ Ｅテレ「おとなの基礎英語」講師でおなじみ、松本茂先生の講演会が12月２日に開催されました。「英語を学び直したい、勉強をしているけど上達しない」という悩みに、ＰＩＣサイクル英語学習法を教えてくださいました。個人学習（Practice）易しい英文を多読、多聴、文法は中学生教材で十分⇒ 集団学習（Interaction）英会話スクール、スカイプ英会話など対話的学習を増やす⇒ 実践（Communication）英語を使ってみる、例えば海外旅行など。的確なアドバイスをお話しいただきました。当日は、多数の方が来場され、同時中継する教室を使用する程の盛況でした。

ＲＳＳＣ同窓会主催「秋の講演会」

「フィギュアスケートの楽しみ方」
西田美和氏

プロフィギュアスケーター西田美和氏の講演会が10月21日に開催されました。西田氏は「社会と向き合い、社会貢献活動に関心を持ち、健康的で知性と美しさを兼ね備えたミセス」を選出するミセス日本グランプリにおいて、2016年にグランプリに輝き、現在様々な社会貢献の場で活躍されています。講演ではフィギュアスケートの技名やジャンプの種類、採点法等について、映像を交えながら丁寧に解説して頂き、フィギュアスケートの奥深さを感じました。また、西田氏のプリンスアイスワールドでの華麗な演技も紹介され、折しも冬季オリンピックを間近に控え、フィギュアスケートへの関心がいっそう高まりました。懇親会では、飯田大和、渡邊慧子組によるラテンダンスのデモンストレーションの披露があり、情熱的なダンスに皆が魅了されました。

社会貢献活動サポートセンター紹介
「キリマンジャロの会」

〈来日した生徒達〉

キリマンジャロの会(以下、キリ会)は、タンザニアのさくら女子中学校(以下、SGSS)の運営支援のために、RSSC有志が2015年に立ち上げた組織です。SGSSは、元RSSC講師、故・岩男壽美子氏(慶應大学名誉教授)が、教育機会に恵まれないタンザニアの女子に教育の機会を提供し、理数系に強い知日派女性リーダーを育てることを目指して2016年１月に開校し、１期生、２期生合計75名が在籍しています。その運営は、生徒への奨学金支給も含めて、日本政府、JICAからの支援に加え、数多くの企業、団体、個人の皆様からの寄付金で賄われています。2017年６月には、日本の良いところを体験しそれを現地に浸透させる目的で４名の学生を日本へ招聘しました。各地の中学校との交流、種々の施設、工場等の訪問を行い、最終日には支援者達との交流懇親会も開催されました。キリ会は、上記訪日団のアテンドも含めて、日本の支援者と奨学生の橋渡し手続、さらに資金調達を兼ねたバザーでの物品販売等で支援活動を行っています。(会長:鈴木勝美)

※岩男壽美子氏は、2018年１月11日に逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。

〈さくら女子中学校〉

夏期集中講義におけるフィールドワーク紹介

「高齢者の生活と介護保険」 橋本正明先生

〈介護体験実習〉

講義では日本における高齢者を取り巻く状況や介護保険制度について学び、介護保険が地域特性を生かした施策であることを知りました。３日目は、担当の橋本先生が理事長をされている立川市の「至誠ホーム」を訪れました。施設見学の後、車いすの介助の仕方を体験したり、職員の方と交流したりすることを通して、介護問題についての理解を深めました。

「2020年オリンピック・パラリンピックを考える」 沼澤秀雄先生

〈建設中の国立競技場見学〉

８月７日、日差しの強い中、東京オリンピックレガシーツアーに行きました。原宿駅近くの五輪橋、代々木公園周辺や、旧国立競技場跡地を見学しました。建設中の国立競技場は、2020年にはどんな姿を見せてくれるのだろうと想像力を掻き立てられます。有明にあるパナソニック社のオリンピックギャラリーは、子どもから大人まで見て触って学べる秀逸な施設でした。

立教大学のクリスマス
〈様々なクリスマスイベント〉

イルミネーション点灯式(11月27日)

聖歌隊やハンドベルの響きの中、立教大学のシンボルである２本のヒマラヤ杉に、イルミネーションが点灯されました。今年のテーマは「つながり」。中川チャプレンより「身近な人のことを思い、優しさをプレゼントしてください」とお話を頂きました。クリスマスの到来を感じ、喜びを共に分かち合いました。イルミネーション点灯式後には、参加者に温かい飲み物が無料提供され、身も心も温まりました。これも、同じ時間を共有する「つながり」を生み出し、再認識が出来たひと時です。

RSSCクリスマス礼拝(12月21日)

今年度初めてＲＳＳＣのためだけのクリスマス礼拝が、立教学院諸聖徒礼拝堂で行われました。入学式で初めて出会い、共に学んできた仲間達と救い主の誕生の喜びを分かち合い、鳴り響くパイプオルガンの音、主の祈り、聖書の言葉、聖歌を歌いました。そして中川チャプレンから講話を頂き、私たちはＲＳＳＣで新たなつながりが出来たこの幸せに感謝します。

編集後記

昨年の今頃はRSSCへの入学を目指し、ニューズレターのバックナンバーをインターネット上で読んでいました。今、作成する立場となり、この20号は受講生の記録とすると共に、これからRSSC入学を思案中の人達への情報提供誌となることも念頭に置き、編集作業を進めてまいりました。原稿を寄せて頂いた皆様に感謝いたします。

後列左から鈴木康仁　大塚喜美子　濱本たまみ　中島幸彦　前列左から岩波礼子　山本順子(副)　佐藤勇一(編集長)　新保美香(副)　小川清子